

国立大学法人岡山大学 中期目標

(前文)大学の基本的な目標

岡山大学は、1870年創設の岡山藩医学館、1900年設置の第六高等学校の伝統を受け継いで、1949年に設立された屈指の総合大学である。以来、教育・研究分野で日本と世界を牽引しつつ、多くの優れた人材を輩出してきた。岡山大学は、この良き伝統の基盤に立って、大学という知性の府に課せられた普遍的な使命、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、21世紀の人類が直面する地球規模の諸課題に対応していくために、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。

岡山大学は、このような理念・目的の下、教育、研究、社会貢献、大学経営、自己点検評価の各領域で基本目標を定め、実現に努めてきた。具体的には、第1期中期目標期間では、教職員の活動評価システムを整備し、大学業務を効率的に運営する体制を整備した。第2期中期目標期間では、「国際的な教育・研究の拠点として、地域社会と連携した『美しい学都』創生」を掲げ、世界的に上位な教育・研究機関となるべく活動を展開した。また、第3期中期目標期間に向けた岡山大学の改革構想と将来ビジョンを「岡山大学改革プラン」として明確化し、大学のグローバル化のための多方面の改革を強力に推進して、聖域なき改革の日常化を図った。

第3期中期目標期間では、急激な少子高齢化・グローバル化を見据えて、聖域なき組織横断型改革を断行するとともに、世界のリーディング大学に伍して、教育、研究、社会貢献の全ての分野で創造的な知性を牽引する大学となるための施策を遂行する。教育では、国際社会や地域社会と連携した実践的教育、世界の異文化を深く体験するグローバルな教育を含む異分野連携教育の展開による「学びの強化」に取り組む。研究においては、異分野融合科学や医療の分野を中心に、世界の卓越した研究機関との密接な連携を強力に推進して、世界トップレベルの研究拠点を形成する。大学経営については、徹底したガバナンス改革に加え、女性・外国人を含む多様な人材活用と協働環境の実現を通じて、全学的な教育研究組織と経営システムの再構築を図る。

岡山大学は、このような改革を通じて、人類が蓄積してきた知と、最先端の知とを総合的に継承するとともに、世界に向けて創造的な知の成果と技の結実を発信し、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを目標とする。

◆中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

- 中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究組織

- この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

1) 教育課程に関する目標

- 1 高い見識を備え、社会において指導的な役割を担い得る人材の育成を目標とし、学士教育では、学生の資質を活かし、社会からの要請に即した教育を推進する。大学院教育では、総合大学院の強みを活かした国際的に通用する学位プログラムにより、研究マインドを持つ高度専門職業人を養成する。

2) 教育方法に関する目標

- 2 学士力を着実に身に付けさせるため、教育システム改革を通じて、効果的な教育方法・教育内容を充実させる。大学院では、従来の個別研究指導方法を維持しつつ、異分野融合や国際化に対応した教育内容を充実させグローバル実践人の育成をする。

3) 成績評価に関する目標

- 3 ディプロマポリシーで明らかにした学生が身に付けるべき学習成果を適切に評価し、成績評価等の客観性、厳格性、国際通用性を担保することにより、教育の質を保証する。グローバル実践人を育成し、高度実践人を輩出する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

1) 教職員配置に関する目標

- 4 岡山大学の教育の基本的目標を達成するため、教職員の適切な再配置を行う。

2) 教育環境に関する目標

- 5 学生の学修意欲・グローバル実践人としての能力向上のため、自主学修・協働学修・ICTを意識した教育環境を整備・充実させる。

3) 教育の質の改善に関する目標

- 6 教育の質の改善・向上を図るため、教育の内部質保証システムを整備する。

4) 医療教育の実施に関する目標

- 7 世界基準に対応した指導方法を習得した指導者を養成し、社会情勢に即した医療教育を実践するとともに、グローバルに活躍できる医療人を育成する。

(3) 学生への支援に関する目標

1) 生活支援に関する目標

- 8 自立と協働に根差した学生生活の充実を図るため、健康（医療）・危機管理・経済面での生活支援、多様なニーズに対する修学環境の整備を実施するとともに、学生が相互に支え合うボランティア活動の支援を通して、生活支援全体の質を向上させる。

2) キャリア支援に関する目標

- 9 社会の経済状況や雇用環境を考慮した就職支援体制を強化し、自己の分析と形成を促すキャリア支援により、社会の多様化と競争に対応できるグローバル実践人輩出を支援する。

(4) 入学者選抜に関する目標

1) 入学者選抜に関する目標

- 10 グローバル社会において、本学で主体的に学びたいという強い意欲を持ち、アドミッションポリシーに適合した基礎学力と優秀な資質を持つ学生を、多面的・総合的な評価に基づき国内外から受入れる。また、優秀で多様な人材を継続的に確保するため、入学者選抜方法の改善を行う。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

1) 目指すべき研究の方向性と水準に関する目標

- 11 世界レベルの特色ある研究及び強化すべき学術領域の研究を一層推進するとともに、各領域の基礎研究力を強化し、研究成果の質の維持向上を図る。また、客観的評価指標を用いて、成果の社会実装の規模と質を確保する。

2) 成果の社会への還元等に関する目標

- 12 岡山大学の研究成果を積極的に広く社会に還元し、イノベーション創出の起爆剤となることによって、地域社会や国際社会の発展及び我が国の産業の振興に資する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

1) 研究の質の向上システム等に関する目標

- 13 客観的指標を用いた評価の仕組みを構築し、世界トップレベルでの研究水準・成果の検証を実現する。
- 14 地域にある国家基幹技術・施設との連携を密にし、海外の大学等との連携、ユニット化を推進する。また、リサーチ・アドミニストレーターなどの高度な専門性を有する者等を含めた学内外の研究管理能力を強化し、広域連携やグローバル化の推進を支える学内体制を構築する。
- 15 本学で強みのある分野及び次世代研究拠点となる分野等を中心に、外部資金獲得とともに研究資金を戦略的に投入する。

2) 研究者等の配置に関する目標

- 16 優秀な若手研究者の確保及び育成制度を充実させるとともに、女性研究者、外国人研究者等多様な人材が活躍しやすい環境を整備する。

3) 研究環境の整備に関する目標

- 17 各学術分野の研究に必要な基盤設備、学術情報環境整備、重点領域の研究に必要なICT基盤、共用研究スペース等の有効活用を推進する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- 18 地域における知の拠点として地域社会と双方向の連携を積極的に行い、地域社会が求める人材の育成を積極的に行う。
- 19 地方公共団体、企業等との連携を更に深化させ、産官学一体の組織的な体制の元、大学発ベンチャーへの支援、地域企業との共同研究を進め、技術・アイデアの社会実装まで一貫して取り組む。さらに、総合大学の利を活かし、世界へ大学の知や技術の成果を還元する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- 20 徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に断行することで国際通用性を高め、ひいては国際競争力を強化するとともに、これまでの実績を基にさらに先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引するための取組を進める。
- 21 学事暦の柔軟化など岡山大学が有する教育研究の強みと国際通用性を最大限に活かして、国際交流・国際貢献を質・量ともに拡大する。

(2) 附属病院に関する目標

- 22 患者の視点に立ち、法令に基づいた安全で先進的な医療を実践することで、質の高い医療を提供するとともに、地域医療の充実のための連携を強化し、大学病院の使命である中核的医療機関として機能を強化する。
- 23 医療スタッフへの教育・研修を充実し、地域社会や国際社会で活躍する優れた医療人を育成する。
- 24 国際水準の臨床研究及び橋渡し研究を担う拠点病院として、新たな医療の創成、先端的な医療の推進及び健康寿命の延伸を目指した次世代医療を推進する。
- 25 大学病院の特色である高度な医療を提供するため、経営分析・評価体制の強化を継続し収支のバランスを図り、病院経営を効果的、安定的に行う。

(3) 附属学校に関する目標

- 26 大学・教育学部及び地域の教育関係者との連携を深め、地域が抱える教育的課題の解決に寄与する教育・研究を推進し、その成果を地域に還元するとともに、学部との協働により、改革する教育実習系カリキュラムに基づいて教育実習を充実させ、地域の課題に対応できる実践的指導力を備えた教員を養成することにより、地域における附属学校の役割を果たす。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- 27 挑戦し続ける大学として、社会的役割を果たすため、ガバナンス機能・運営体制等の強化に取り組み、本学の強みを活かした組織及び運営の改善を、多様な人材を活かしつつ、学内資源再配分等により継続的・恒常的に実施する。
- 28 国立六大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学）連携コンソーシアム等の大学間連携により、教育・研究等の機能の強化を図る。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- 29 国際社会・地域社会から期待される本学の役割等を踏まえつつ、学長の強いリーダーシップの下で大学の強みや特色を活かした教育研究組織改革を推進する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- 30 組織改革に対応しつつ、継続的に事務等の効率化・合理化を推進し、事務組織の最適化を図る。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標

- 31 教育・研究・国際交流・社会貢献等の活動を充実するため、外部研究資金その他自己収入、病院収入の増加を図るとともに、継続的かつ安定的に収入を確保できる基盤を確立する。

2 経費の抑制に関する目標

- 32 安定した大学運営を行うため、業務の効率化、施設・設備の共同利用化等を更に推進し、経費を抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- 33 岡山大学が保有する資産を更に効率的・効果的に運用する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- 34 岡山大学における教育研究等の活性化と質的保証を目的として効率的な自己点検・評価を実施し、その評価結果を諸活動の改善に反映させるとともに、社会への説明責任を果たす。

2 情報公開等や情報発信等の推進に関する目標

- 35 開かれた大学としての透明性の確保と説明責任を果たすため、「教育改革の過程や成果」, 「研究大学としての研究成果」, 「社会貢献活動」や大学情報を国内外に発信する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- 36 グローバル化等の進展に対応した安全で快適かつ高機能な教育研究医療施設の整備充実を推進するとともに、常に良好なキャンパスの維持・向上を図る。また、全学共有の施設を有効かつ戦略的に活用するとともに、地球環境への負荷の少ない、持続的発展が可能な社会に貢献するキャンパス整備を推進する。

2 安全管理に関する目標

- 37 安全・安心なキャンパス構築を目指し、学生及び教職員の安全と健康を確保し快適な活動ができるように、役職員の意識向上を通して、危機管理、安全衛生管理に関する効果的なマネジメントを実行するほか、情報セキュリティ、情報コンプライアンスの継続的な意識向上を行い、安全文化を醸成する。

3 法令遵守等に関する目標

- 38 岡山大学としての社会的使命を果たしつつ、研究不正等を未然に防止するため、法令遵守ガバナンス体制を検証し、組織的点検・責任体制の改善・整備を推進し、倫理教育、法令遵守の徹底及び危機管理体制を強化する。

別表 1 (学部, 研究科等)

学 部	文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 環境理工学部 農学部
研 究 科	教育学研究科 社会文化科学研究科 自然科学研究科 保健学研究科 環境生命科学研究科 医歯薬学総合研究科 法務研究科 連合学校教育学研究科 (兵庫教育大学大学院の参加校である。)

別表 2 (共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点)

共同 利用 ・ 共同 研究 拠点	資源植物科学研究所 惑星物質研究所
教育 関係 共同 利用 拠点	理学部附属臨海実験所